

平成28年度 学校評価 総括表 吉野町立吉野北小学校 校長 藤井登志夫

教育目標		聴きあい 言いあい つながり響きあう 子どもの育成			総合評価	
運営方針		学校教育目標の達成をめざして、「よく学び、しんせつ きづかい たくましい子」を育てる			B	
前年度の成果と課題		本年度の重点目標				
学力体力向上。基礎基本の定着。 発表力向上。学習不振克服。 学習規律徹底。家庭学習の充実。 読書活動充実。規範意識向上。 特別支援充実。基本的生活習慣。		1 学習のルールを徹底して「聞く話す表現する力」を育成する。 2 「見通し」「振り返り」の徹底、考える場面、基礎基本の定着。 3 体力向上をめざして、運動の充実を図る。 4 歩みを止めて挨拶を行う。 5 問題行動等には一人で抱え込まずに組織で対応する。	6 特別の教科道徳を見据え、資料の整理及び授業研究を行う。 7 ふるさと学習の中身を検討しながら、課題解決学習へつなげる。 8 読書タイムの充実を図り読書量を増やす。 9 特別支援教育の充実 10 園・小、小・小、小・中の接続や連携を充実にさせる。			
教育活動 や分掌等	評価項目	取組と成果	評価	課題及び改善方法	学校関係者評価	
学力向上	基本的基礎的事項	県算数テストの再テスト。漢字の定着に向けた繰り返し練習。	A	ミニテスト(計算)の継続。2年生以上の九九の定着を。	・全国学力状況調査の結果を早く返してほしい。(12月では遅い) ・いじめ問題には教員が一人で抱え込まずに話し合える雰囲気や教師間につくりながら、いじめは絶対に許さないという姿勢を貫いてほしい。見つけたら、学校をあげて速やかに解決する組織にしてみたい。 ・テレビやゲームで遅くまで起きていると生活のリズムが狂ってくる。(朝食抜き・便秘傾向) ・児童も専門機関に相談に行っているのだが、学校は児童と子どものことで事実や実態を交流する必要がある。子どもは、学校で見せない姿を見せることがある。学校と児童との連携が今後、更に必要になる。	
	学習規律	学習規律7つの約束を作成して、徹底を図った。	B	4月から7つの約束を全学年実施する。(継続)		
	学習の準備	学校での学習の準備や整理整頓を進めた。	B	机上に準備物を(休憩時間)。机の中の整理整頓。[時間割順]		
	伸ばしたい力の育成	聞く・話す・表現する力の育成に取り組んだ。	B	話し合い、発表を大切にする。感想を言える自信を。書く力。		
	家庭学習の習慣化	家庭学習の手引きを見直して家庭学習の充実を図った。	B	よい家庭学習ノートの掲示。家庭読書の啓発。		
	指導法の統一	授業においては「見通し」「振り返り」を行っている。	B	算数の振り返りには「気付きや学び」を発表or書かせる。		
体力向上	補充学習・支援	学力不振児童への指導・支援を協力して行ってきた。	A	学習不振児への支援の継続。放課後学習の継続。		
	体力実態の分析	体力の実態を分析して、全職員で課題を明確にしている。	A	各学年の達成目標を明確にする。跳び箱運動等と同じ時期に。		
	授業での取組	体力向上に向けた取り組みを行っている。(研究の余地あり)	B	年間計画の確立。授業指導法の相談(隣接学年で)		
	授業以外の取組	授業以外で体力向上に向けた取り組みを行っている。	B	遊びの工夫。業前運動の工夫(目標を持たせる)。		
生徒指導	生活習慣の確立	基本的生活習慣の定着に向け取り組んできた。	B	保健指導を継続して、家庭への啓発を粘り強く行う。		
	組織的な生徒指導	課題を抱える学級への支援体制をつくり支援した。	B	生徒指導部を定期的に持つ。		
	問題行動の指導	ルールを示し、一貫性のある統一した指導を行っている。	B	基本的ルールは校内で共有する。複数で対応(継続)。		
	規範意識の醸成	児童は挨拶ができ、礼儀正しい行動ができるようになった。	B	歩みを止めて挨拶の継続。家庭・地域・友だちへ広げる。		
道徳・人権	いじめ問題	いじめの実態把握、早期発見に努めている。	B	児童へのいじめアンケート調査を含め、組織をあげて行う。		
	全体計画立案	道徳教育全体計画を作成し、共通理解を図った。	A	部会(継続)。なかま教材からの題材を選ぶ。		
	道徳教育推進	道徳科の導入に向けて、研修や授業研究を実施した。	A	授業研究を始め計画的に実施していく。		
ふるさと	人権教育の充実	質の高いなかま集団をめざすための取組を実施してきた。	B	人権講話の継続(人権作文等)。町人教3柱を推進計画に。		
	指導計画の立案	年間計画や学習内容の立案ができて実施してきた。	B	年間計画や学習内容を検討してよりよいものへ。		
	内容の精選改善	ふるさと教育を切り口とした地域学習の充実をめざしてきた。	A	学習内容を年度毎に保存していく。		
読書	地域力を生かす	地域の人の参加による教育活動を展開してきた。	A	人から学び体験することで郷土愛を育てる。課題解決学習。		
	読書活動推進	読書タイムなど読書活動を推進する取り組みを行ってきた。	B	読書タイムの充実。個に応じた読み物をすすめる。		
	図書室有効活用	図書室が教科指導や読書活動に有効に活用されている。	B	図書室の有効活用を継続する。		
特別支援	個別の指導	児童に応じた読み物への指導を行ってきた。(不十分)	B	個人に応じた読み物を紹介する。ボランティアの協力を。		
	内容	支援計画や指導計画を作成して支援を行ってきた。	B	新たに入級する子どもの支援計画や指導計画の作成。		
	指導方法の工夫改善	校内委員会で指導方法や授業内容を検討・改善している。	B	気になる子について指導を受ける。校内委員会の充実。		
連携	家庭との連携	懇談や家庭訪問を行い、家庭との共通理解を図ってきた。	B	保護者との懇談や家庭訪問を継続して信頼関係の構築。		
	家庭・地域との連携	地域パートナーシップ事業を積極的に活用している。	B	分団担当者が地区懇へ参加する。教師が地域に協力する。		
	校種間連携	園小、小中、小小に向けて連携して取り組んできた。	B	カリキュラムづくり。協同授業の工夫。実施方法の改善。		

・子ども4～5歳の頃の話し込みが成長後に大切であるといわれている。小さい頃から自分の思いをしっかりと伝えることが大事である。小学校に反映される。

 ・いろいろな人が関わって子どもたちが学んでいることに感謝する。

 ・運動会の日を10月にずらせないのか。9月の休日が多く、子どもたちの練習日程が過密に感じる。小さい学年ほど体力的にきついのでは。5月に実施しているところもある。